

会 議 結 果

会 議 名	第1回西尾市一般廃棄物中間処理施設建設専門委員会
日 時	令和4年5月6日（金）午前9時30分～午後4時
場 所	西尾市クリーンセンター 研修室
委 員	松田 仁樹（委員長）、辻 喜礦（副委員長）、小口 達夫、小島 義弘、 新井 正徳、高須 耕、鳥居 栄一
出 席 者	<p>【事務局】 環境業務課（渡辺課長、杉浦主幹、古居主任主査、小池主査、細尾主査）</p> <p>【廃棄物処理施設整備基本計画策定業務受託事業者】 八千代エンジニアリング株式会社（3名）</p> <p>【同席者】 岡崎市ごみ対策課（加藤課長、市川主事）</p>
傍 聴 者	5名
議 題 等	下記のとおり
結 果 等	<p>1 あいさつ 高須西尾市環境部長からあいさつ</p> <p>2 委員の紹介</p> <p>3 委員長及び副委員長の選出 松田委員を委員長に、辻委員を副委員長に選出</p> <p>4 諮問</p> <p>5 岡崎西尾地域広域ごみ処理施設に係るこれまでの検討経緯</p> <p>6 事業全体スケジュール（予定）</p> <p>・質疑応答及び意見</p> <p>（委員） この委員会で担当するのは、スケジュールのどの項目か。</p> <p>（事務局） 項目4「廃棄物処理施設整備基本計画策定」の要素を議論していただきます。</p> <p>（委員） その他のことは、この委員会では求められていないということか。</p> <p>（事務局） そのとおりです。</p> <p>（委員）</p>

最終処分場はどこになるのか。

(事務局)

西尾市の最終処分場に搬入します。合併前の旧1市3町それぞれの4箇所ですが、旧3町のものは順次閉鎖していき、最終的には旧西尾市の平原最終処分場が残ります。

(委員)

広域で最終処分する量は西尾市単独よりも増える。灰の資源化を行わない場合、最終処分場は20年で満杯になるとのことだが、その点も重要なポイントか。

(事務局)

そのように考えています。

(委員)

南海トラフ地震が起こった場合、洪水等の危険性があると思うが、建設する施設によって洪水対策を個別に考える必要があるのか。或いはどれを建設したとしても、洪水については別に対策を考えるので、選定する上では洪水について加味する必要はないのか。

(事務局)

建設予定地の浸水深は約3mなので、どの処理方式でも浸水対策は必要となります。

7 建設予定地の基本条件

・質疑応答及び意見

(委員)

搬入道路や発電施設も浸水対策が必要ではないか。

(事務局)

施設整備基本計画の中でも防災計画として整理します。第5回の議題として予定しています。

(委員)

新施設は既存施設の約2倍の処理能力だが、建設面積はこれで大丈夫か。どの処理施設でも入るのか。

(事務局)

これまでの適地選定業務において検討しており、建設可能と判断しました。我々（八千代エンジニアリング（株））としても最近調査をし、何とか入るだろうと考えています。

(委員)

リサイクルなどの既存施設を生かしながら建設するのか、それとも全て新調してやるのか。

(事務局)

基本的には、既存のリサイクル施設や焼却施設を稼働しながら建設できると考えています。

(委員)

将来的に既存施設を取り壊した跡地は、何か他に使い道があるのか。

(事務局)

新施設の供用開始後に、既存施設を解体します。その後の跡地利用については、この業務の中で検討したいと考えています。

(委員)

住民の皆さんに対してサービスするような施設か。色々あると思うが、これからの検討か。

(事務局)

そのとおりです。

(委員)

建設予定地に本当に入るのか。処理能力310t/日は既成事実で、これ以上変わらないのか。

(事務局)

これよりも増えることは無いと考えています。

(委員)

委員会で議論していき、見落とし部分を考えたらどうかとなっても、310t/日は動かさないということか。

(事務局)

施設規模については、他の自治体でもそうですが、施設整備基本計画の中で検討されます。310t/日というのは検討において想定している規模であり、それが変わる可能性が無いわけではありません。ただ、大きくなる方向は無いだろうと考えています。

(委員)

特別高圧線の移設について、どれくらい検討は進んでいるのか。

(事務局)

現在、電力会社と協議を進めています。事業スケジュールを提示しており、それに向けて電力会社に動いていただくことになっています。

(委員)

鉄塔も浸水深3mとなっているが、対策をしないといけないのか。

(事務局)

鉄塔の移設先については、電力会社が候補地を選定されます。適切な移設先を電力会社で検討されると理解しています。

8 議題

(1) 廃棄物処理施設整備基本計画の構成と委員会スケジュールについて

・質疑応答及び意見

(委員)

第5回と第6回の日程は、これから決めるのか。

(事務局)

来年度が始まる前に、日程調整させていただきます。

(委員)

ごみ処理方式の検討とのことだが、ごみ処理方式を1つに絞っていくのか、或いは複数方式を選べるような決め方にするのか。

(事務局)

その点は、非常に重要だと考えています。第2回で説明をさせていただく予定です。

(委員)

世間的には、一本釣りは難しく、公募をかけて評価項目を設けて最終的に点数評価して決める、という方式で動いている。この委員会でも、そういうことを考えているか。

(事務局)

評価項目を定めて処理方式を選定していきます。処理方式によって特徴があり、優劣付け難くても1つに選ぶのか、色々な考えがあると思いますので、第2回で議論していただきます。

(委員)

処理方式によって、環境負荷など条件が大きく変わってくる。このスケジュールは、ある程度処理方式を絞ってから検討していく流れを想定していると理解したが、そうでない場合、全部抱き合わせで考えていけないといけない。

(委員)

この地区の特徴を考え、どのようなごみ処理が求められるのかを考えた上で、処理方式を決めていくのはどうか。ここのオリジナリティーを出してから議論した方がやりやすいと思う。

(委員)

生ごみや廃プラスチックの減量化、災害ごみなど、条件をきちんと整理すべき。個人的には、生ごみをそのまま処理するのは納得いかない。その辺りを整理した上でごみ量を設定していただきたい。

(委員)

漠然とではなく、もう少し条件の提示を。第2回までに、この委員会のオリジナリティーとしてどういう処理施設を考えていこうとしているのかが見えるようお願いしたい。

(委員)

災害ごみとして10%積み上げているが、災害は何年かに1回という頻度なので、災害が起こらない時はその分の処理能力はどうしていくのか。

(事務局)

災害ごみに対して施設規模を10%程度大きくするのは他の自治体でもやられています。余力があることになるが、ごみ量自体が予測値なので、分からないところがあります。他施設を見ると、その分で新たに処理するのではなく、処理回数を減らして発電効率を上げるような運営をしているところが多いです。減多に起こらないことに対して施設規模を大きくした方がいいのか、ごみ質や将来ごみ量について、前提条件として第3回で議論していただく予定です。

(委員)

A市の場合、委員会というよりは市として災害ごみについて考慮していて、処理能力に余力を持たせてある。ただ、A市の災害ごみはそれほど多く出る想定ではなく、場合によっては近隣自治体の応援を想定している。

(委員)

西尾市は農業、工業、漁業と広域に渡った産業があり、例えば温室ハウスを廃棄したプラスチック等はこの地区ならではの特徴のある処理物かと思うので、ごみの中身を新たに検討する必要はないか。

最終処分場の残余年数を有効に使うためには、処理施設としてどうあるべきか。最終処分場そのものを延命する方法について、処理施設の中で考えられるのか。この委員会でそこまで議論できるのか。

この地域のオリジナリティーは何なのか、事務局はどう考えるのかを出していただかないと、委員会で議論をしても月並みな答えしか出てこない。次回までによく整理をし、議論しやすい雰囲気を作っていただきたい。

(2) 施設整備基本方針について

・ 質疑応答及び意見

(委員)

基本方針4に「廃棄物処理に伴うエネルギーを最大限に回収」とあるが、これは所謂高効率発電と排ガス回収か。高効率発電は、補助金に関係もありどの施設でも横並びでやっており、特徴があるわけではない。処理システムの中で特徴が出るのはどういうところか。それと、最終残渣は処理施設によって違ってくるが、この辺りは第2回で整理ということによいか。

(事務局)

そのとおりです。

9 その他

10 施設見学

西尾市クリーンセンター

岡崎市中央クリーンセンター